

## 錦江湾の再生から、地域の未来をデザインする「チーム・ハレ」設立 漁業者・地域住民・専門家・企業・自治体が連携し、環境保全と地域創生に取り組む



チーム・ハレ



2026年4月1日に、鹿児島県霧島市を拠点に、海を起点とした持続可能な地域づくりに取り組む任意団体「チーム・ハレ」を設立しました。

チーム・ハレは、鹿児島県漁業協同組合錦江支所女性部（霧島市）と一般社団法人浦々シマジマ実践ラボ（東京）の共同事業として、2025年10月にプロジェクトチームとして発足し、「錦江湾の再生から、地域の未来をデザインする」をコンセプトに、海の環境保全・再生と地域創生、水産業振興の同時解決を目指す各種取組を実施してきました。これまでの取組の成果を錦江湾全域に広げ、沿岸域の振興に資する持続的な取組とするため、このたび任意団体として体制を整備し、2026年4月1日より、鹿児島県漁業協同組合錦江支所女性部と浦々シマジマ実践ラボの共同運営団体として活動を展開することとなりました。

### ■チーム・ハレのミッション

海が輝き、産業が躍動し、暮らしが彩り、人々の笑顔が重なる。100年先も続くみんなの『ハレの日』を共に創造していくことが、チーム・ハレのミッションです。

近年、海洋環境の変化や漁業の担い手不足、子どもたちの自然離れなど、地域を取り巻く海と暮らしの課題は山積し、かつ、複雑化しています。鹿児島県本土の中央部に位置する鹿児島湾（通称：錦江湾）周辺でも同様の傾向が見られます。

チーム・ハレでは、これまで、子どもと大人が同じ目線で海の再生を考える「海のおとな会議こども会議」、海底湧水の塩づくり体験を通して山と海とのつながりを考える勉強会、琉球との交流の歴史を踏まえた漁協コンサートなど、異なる分野をつなぎ、協働する活動を行ってきました。今後も、豊かな錦江湾の自然とそこに息づく文化を次世代へと引き継ぐことを目指し、漁業者、NPO/NGO、自治体、企業、専門家、子どもたち、そして地域に暮らす方々という多様な主体と「共創」しながら、活動を展開していきます。

### ■団体の目的

当団体は、以下の活動を通じて、持続可能な社会の実現と社会貢献を図り、地域社会に活力と彩りを与える「ハレ」の日を創出することを目的としています。

- ・地域の豊かな自然及び文化の継承、並びに海辺を起点とした地域創生
- ・海の環境保全・再生、及び水産業の振興
- ・水辺及び地域の資源に関する環境教育・普及啓発
- ・異業種連携によるネットワークの構築推進

### ■団体概要

名称：チーム・ハレ（英名：Team HARE）  
所在地：鹿児島県霧島市隼人町真孝708-2 2階  
主な事業内容：地域活性化プロジェクト事業、サステナブル事業（商品・サービス開発）、普及啓発・教育事業、ネットワーク構築・共創事業など

#### ★イベント情報発信中！

公式サイト <https://www.teamhare.jp>

Instagram [https://www.instagram.com/teamhare\\_](https://www.instagram.com/teamhare_)

次回イベントは2026年7月12日（日）開催！



イベント詳細

<https://www.teamhare.jp/news>



Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## 年12回開催予定！「こども海ほごく」プログラム

鹿児島県漁業協同組合錦江支所では、一般社団法人浦々シマジマ実践ラボの運営支援を受け、2026年度より、子どもたちと漁業者がともに学び、地域の専門家や大学と協働しながら海の課題解決に取り組む年間プログラム「こども海ほごく」をスタートしました。

「こども海ほごく」は、海や川での体験活動を通して、子どもたちが自然環境や地域の漁業について学ぶ実践型プログラムです。アユの伝統漁、アサリの生育調査、海ごみ調査、生きもの観察など、毎月さまざまなテーマを扱い、子どもたち自身が“海の未来を考える当事者”となることを目指しています。

住民が海に興味を持ち、触れ合う機会を増やすとともに、海の生態系保全・回復と漁業振興とを両立させる、錦江湾ならではの取り組みです。

フィールド：霧島市の海・川などの水辺

実施期間：2026年4月～2027年3月の12か月間、毎月1回開催（予定）

こども海ほごくの目的：

- 1.地域の自然の変化を捉え、持続可能な地域の在り方を創造する人材を育てます。
- 2.自ら仮説を立てて試行錯誤できる知見と技術を持ち、異なる分野の人たちと対話しながら漁業を盛り上げる漁業者（と、その卵）を育てます。
- 3.海だけでなく、分野を越えた連携を実現します。

★イベント情報発信中！詳しくはWebサイトをご覧ください。

<https://www.teamhare.jp/kidsocan>

後援：鹿児島県、霧島市

本プログラムは、日本財団から鹿児島県漁業協同組合錦江支所への助成を受けて実施しています。



### ■鹿児島県漁業協同組合錦江支所女性部について



鹿児島県漁業協同組合錦江支所女性部

海の恵みも、直面する課題も、すべて私たちの日常。だから守りたい未来がある。

～ 錦江湾の豊かな恵みを、次の世代へ～

鹿児島県漁業協同組合錦江支所女性部は、海と共に生きる漁業者の視点から、地域の漁業や文化を見つめ、魚食の普及、海の再生や保全活動を世代を超えて活動を進めていきます。共に学び、共に楽しむ事でより豊かな未来を開くことを目的とした団体です。

漁獲量が上がれば、海の再生もすすむ。

そんな漁業を目指しています。

豊かな海への感謝を忘れず、しなやかに、力強く歩みを進めていきます。

### ■一般社団法人浦々シマジマ実践ラボについて



浦々シマジマ実践ラボ

「自然もある、文化もある、でも課題もたくさんある。ほかから求められる地域の姿ではなく、自分たちがなりたい地域をつくりたい。そんな人たちのための浦シマラボ。」

日本各地の自然環境、文化、技術を支える人々及び地域社会の知見をつなぎ、気候変動緩和および適応、流域治水、水循環の再生、生態系および生態系サービスの保全・回復を進めるための地域風土に根差した実践と共創の輪を広げることで、人と自然が共に尊厳をもって共生する多様で豊かな社会の実現を目的とした団体です。

Webサイト <https://www.urashima-labo.or.jp/>

## ■これまでの取り組み



### 「第2回 海から学ぶわたしたちの暮らし ワークショップ」

開催日：2025年10月25日(土)

場所：錦江湾

内容：楽しく海の自然を学べる海底探検ワークショップを開催。海藻の専門家である新井章吾先生をお迎えし、海の再生につながる試みとして、海底に穴をあけ、地下からの湧き水の量を増やす取り組みを行いました。

共催：霧島オーガニック給食推進協議会

### 「海のおとな会議・こども会議」

開催日：2025年12月19日(金)～21日(日)

場所：ホテル京セラ、隼人港、国分海浜公園、小浜海水浴場

内容：【気候変動で変化する海に対応する豊かな海づくり】をテーマに、鹿児島県内外から、専門家、自治体、国の機関、企業、NPO、漁業者、子育て世代の親子など約150名が集まりました。

<イベント実施レポートはこちら> <https://www.teamhare.jp/report01>

主催：錦江漁業協同組合

共催：霧島オーガニック給食推進協議会

後援：九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所、霧島錦江湾国立公園管理事務所、鹿児島県、霧島市

協力：Leeds大学、琉球大学

運営：チーム・ハレ

このプログラムは、Lenfest Ocean Programの助成によって開催しました。



### 「KINKOWAN SEA SIDE SESSION 2026」

開催日：2026年2月22日(日)

場所：錦江漁業協同組合2階

内容：自然と音楽をテーマにした子ども向けワークショップおよび、ミュージシャン「宙の鳴き声」さんによるアコースティック・ライブを開催しました。ワークショップでは、宙の鳴き声さんと一緒に錦江湾の自然(海・空・風)からインスピレーションを受け、言葉やリズムを組み合わせて「自然のテーマソング」を制作しました。



### 「第3回 海から学ぶわたしたちの暮らし ワークショップ」

開催日：2026年4月16日(木)

場所：錦江湾

内容：楽しく海の自然を学べる海底探検ワークショップを開催。海藻の専門家である新井章吾先生をお迎えし、海の再生につながる試みとして、海底に穴をあけ、地下からの湧き水の量を増やす取り組みを行いました。

共催：霧島オーガニック給食推進協議会



### 「勉強会 インバウンド観光と富裕層の動向～「文化的富裕層」を考える～」

開催日：2026年4月18日(土)

場所：錦江漁業協同組合2階

内容：霧島市が持つ地域資源を活かしながら、インバウンド・富裕層の誘致に向けてどのような戦略を描けるか、富裕層向けガイドに携わる田畑菜々子さんを講師にお迎えして、皆で考えました。

